

平成28年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに、教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を深め、国際的視野の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する ② 自他を大切にする心や態度を育成する ③ 家庭への啓発活動を推進する	①	人権に配慮した教育活動ができている。 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上	① 人権に配慮した教育活動 生徒 85.5% 保護者 89.6% 教員 100%	B A A	(評定) B (所見) 人権HRの事前検討会では、各HRの現状について協議し、各HRの課題を踏まえた指導方法を話し合い、授業に臨んだ。また、人権講演会は学校公開週間に合わせて実施し、保護者、地域の方々にも案内、参加していただくことができた。 特別支援学校との交流では、今年度はサイエンス部化学班が国府支援学校高等部の生徒と化学マジックを通じて交流した。 人権啓発作品展では、人権委員をはじめ全校生徒の協力のもと、多くの作品を校内に掲示できた。また、今年度は「人権に関する児童・生徒作品」の標語ポスター部門、作詞作曲部門でそれぞれ知事賞他、校外表彰を受けた。	人権HR活動や人権啓行事、ボランティア活動など、人権を学ぶ意欲の高揚を図る。自主活動は学校全体として実施できている。肯定的な回答がさらに増えるよう、効果的な職員研修を行いたい。 人権講演会の公開は今後も行うべく行事内容（講師の選定など）や広報の仕方についてなど検討したい。 特別支援学校との交流については、今後も交流のあり方を、持ち方について互いに協議し、有意義な出会い・学びの場となるよう努めたい。
	②	生徒の人権意識の向上度 70%以上	② 生徒の人権意識の向上 生徒 81.8%	A		
	①-1	「人権週間」の回数 年間4回を設定	①-1 4回実施	B		
	①-2	教職員人権研修会回数 年4回実施	①-2 4回実施	B		
	②	人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示 年4回以上	② 3回実施	B		
	③-1	「人権教育展」の回数 年間3回開催	③-1 3回実施	B		
	③-2	校誌の人権コーナーを充実	③-2 生徒の活動・作品を掲載	B		
		活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1	・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）の実施	①-1 ・HRの実態に即した授業展開や人権講演会の運営に関する事前検討会や事前研修に活用した。 ・11月に人権講演会を行った。			
	①-2	人権意識高揚のための職員研修会を年間で2回実施する。	①-2 7月と12月に実施した。 テーマ「障害者（障害者差別解消法）」「道徳教育」			
②	・人権標語の募集、展示 ・特別支援学校との交流 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会やKnow サークルの活動として、掲示物の作成に取りかかる。（年間4回以上） ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。	② ・標語や啓発作品を全校生徒から募集し人権展で掲示。 ・3月にサイエンス部が国府支援学校で交流を行った。 ・啓発作品の掲示を各学期に行った。 ・Know サークル部員が人権交流事業に参加。中部ブロックの運営スタッフとして活躍した。				
③-1	P T A 総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。	③-1 ・5月、9月、11月に実施。				
③-2	校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	③-2 ・校誌の人権に関するページに生徒の人権作文、自主活動（Know サークル）の取り組み等を啓発資料として掲載。				
				学校関係者の意見	・特別支援学校との交流は素晴らしいと思う。 ・松本サリン事件についての講演会を聴いた子どもが感銘していた。 ・子供が松本サリン事件の講演会に触発されて、ネットで事件のことを調べていた。 ・いろいろなことを知る契機となる講演会や授業があり評価できる。	

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①	授業の工夫改善度 各教科 75%以上 学習に対する動機付け 75%以上 学習に対する意欲度 75%以上	① 工夫改善 75%以上10教科 (平均83.6%) 動機づけ 85.1% 意欲度(興味・関心をもてる) 75%以上5教科 (平均75.2%)	A A B	B	学習意欲を引き出すと、授業個々の成果を上げる。予習・復習等による学習時間の増加と、学習用具の充実が大きな課題と考へられる。主体的な学習ができない生徒が増えていると、全国的に言われている中で、引き続き地道な取り組みを続けるとともに、新たな方策を考へることも検討すべきかもしれない。刻々変化する全国的な教育の動向にも注視しながら、適切な実施に努めなければならない。
	②	予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 50%以上	② 予習への取り組み度 36.5% 復習への取り組み度 62.5%	C B		
	③	進路希望にあったコース（教科・科目）の満足度 80%以上	③ 生徒コース満足度 92.0%	A		
	①	相互参観授業回数 各教員年4回 授業公開 年2回	① 各教員年4回以下 年2回実施	B B		
	②	生徒の学習時間（1日あたり） 30分未満の生徒の割合 1%以下 3時間を超える生徒の割合 50%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上	②（4～12月） 1年 0.3% 2年 0.6% 1年 61.6% 2年 35.3% 1年 3.3時間 2年 2.7時間	B A B B		
	③	教科研究会開催回数 年3回	③ 各教科平均 年3回以上実施	B		
	活動計画		活動計画の実施状況		（所見） 評価指標による達成度によると、授業の工夫改善・学習に対する動機づけ・意欲度はそれぞれ目標を達成した。しかし、授業の予習への取り組み度は今年度も指標を達成するにいたっていない。また、生徒の家庭学習時間においては、1年生は指標を達成できたが、2年生は達成をできなかった。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果を上げている。また、教科研究会についても各教科で、学期毎に実施している。	学校関係者の意見 ・日々の先生方の御指導に感謝する。 ・主体的な学習の大切さを再確認した。 ・復習を大切にし、授業の内容が身に付いているかどうかをフォローできる体制の充実が望まれる。
	①	・教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 ・シラバスの改訂を行う。 ・相互参観授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。	①	・シラバスを作成し、ホームページに掲載。 ・公開授業2回で相互参観を実施。		
	②	・第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 ・好ましい学習態度を理解させる。 ・予習・復習、授業の受け方を指導する。 ・家庭学習時間調査を毎日実施する。 ・週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 ・学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 ・基礎学力養成講座、再テストを実施する。	②	・英数国理社の学習ガイダンスを4/13、4/14に実施。 ・予習中心の学習スタイルを指導する。 ・家庭学習調査を毎日実施。 ・各教科で課題等を実施する。 ・サクセス週間で実施。 ・基礎学力養成講座8月22、25日に実施。再テスト1月11日～13日に実施。		
	③	・学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 ・教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。	③	・定期考査最終日に授業を実施した。 ・平成29年度教育課程編成終了。		

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価				次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる	① 総合学習「クエスト」の有用度	80%以上	①有用度 生徒 74.6%	C A B A B	(評定)	SGHの取り組みによって、大学や企業との連携を深め、より深い課題研究を実施させることにも取り組む。また、次年度の研究成果を3年次に向けて発表させるべく、各種コンクールの参加・応募を模索したい。	
	② 城東ゼミ（補習）の有用度	70%以上	保護者 87.8%				
②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	①-1 大学2回、企業研修1回	B B B B B	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-2 1回（10/24～26）実施				
③進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	①-3 職業ガイダンスの実回数	1回以上	①-3 1回（1/19）実施	B B B B B	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	①-4 省庁・国際機関での研修	各1回以上	①-4 外務省1回、国際機関等2回				
	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	100講座以上	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 111講座	B C	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	②-2 国公立大学合格者の割合	63%以上	②-2 66.0%				
	②-3 難関大学（東京・京都・大阪大学、医学・歯学・薬学部など）合格者	40名以上	②-3 35名	B C	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	②-4 校外模試偏差値70以上	30名以上	②-4 70以上1年44名 2年23名 60以上1年152名 2年103名 （3教科 10月29日進研模試）				
	②-5 SGH・課題研究発表会の回数	2回	②-5 2回（7/23、2/8）実施	B C B B	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	②-6 課題研究コンクール入賞	1班以上	②-6 入賞した班はない				
	②-7 学力テスト講評の配布回数	11回以上	②-7 学力テストの講評11回配布	B B	B	高大接続改革を踏まえ、大学の備えとして、基礎学力・表現力・探究力・学習等を加えて、探究学習を実践する必要がある。SGHの活動・課題研究に積極的に参加する姿勢を育成したい。	
	③ 進路説明会年間3回実施（各学年1回以上）		③ 進路説明会回数 4回実施。				
	活動計画		活動計画の実施状況				
	①-1 東京・京都大学見学の実施。企業研修の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。		①-1 8/3～5東大5名、8/9～10京大68名参加。9/23企業研修は1年参加。			（所見）職業観を育成し、目標を持つための、大学見学や企業研修、大学授業体験及び国際機関等での研修や発表会は、計画通りに実施できた。しかし、生徒の希望参加人数が減少しているため、検討が必要である。保護者対象の進路説明会を4回実施した。外部講師を招いての講演会と本校教員による説明会を行った。3年の進路説明会では構成を変えたことで、より一層、保護者への情報発信がしやすくなり、期待されている。校内では各学年での模試分析会を3年だけでなく1・2年でも3回実施し、期間やクラス間で共有することができた。	
	①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。 ①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。 ①-4 外務省・文科省等での研修の実施。		①-2 3日間で29講座に113名受講 ①-3 1/19講師19名が来校。 ①-4 FA0、JICA関西、WHO神戸センターでのべ87名研修。				
	②-1 補習を実施。毎週 38講座（3年生） 38講座（2年生）、24講座（1年生）		②-1 毎週 44講座（3年生） 43講座（2年生） 24講座（1年生）			・様々な研修会等への参加の機会をつくり、生徒の進路選択の幅を広げていることで、進路選択のモチベーションを上げていると感じた。 ・単に大学訪問だけでなく、国家機関への訪問もあわせて、自分の将来を見据えた指導がなされている。 ・SGH活動への主体的参加について、決められた課題に対して主体的に参加させる意義を明確にする必要がある。 ・もう少し保護者への周知が必要ではないか。 ・進路指導においては、書類や面接などの確に指導していただいた。 ・大学進学以外で活躍する子供たちのことも知りたいと感じた。	
	②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施。 ②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施。		②-2 3年生 4回 ③-3 1, 2年生3回 3年生2回				
	②-4 模試分析会を第1, 2学年で3回実施。 ②-5 第2学年で課題研究発表会、第3学年でSGH発表会を実施。 ②-6 課題研究コンクールへの応募の督促。 ②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布。		②-4 1, 2年生3回 ②-5 7/23SGH発表会、2/8課題研究発表会を実施 ②-6 応募2大会 ②-7 学力テストの講評11回配布				
	③ 進路説明会の実施。（各学年1回） ・最難関大学進学希望者説明会の実施。 ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。		③ 各学年1回（3年2回） ・3年1回実施 ・2年2回、1年1回実施				

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
<p>①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る</p> <p>②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する</p> <p>③良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する</p> <p>④生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する</p>	<p>①-1 服装・頭髪・あいさつが身についている。 生徒 85%以上 教員 85%以上</p> <p>①-2 ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上</p> <p>③ いじめを未然に防止するため、積極的な取り組みを行っている（面接・アンケート等）。</p> <p>④ 組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上</p>	<p>①-1 服装・頭髪が守れている 生徒92.3%,教員96.6%</p> <p>①-1 あいさつができています 生徒78.7%,教員69.0%</p> <p>①-2 生徒87.2%</p> <p>③ 学校生活についてのアンケートを2回・面接を実施した。</p> <p>④ 組織的指導 教員87.9% 保護者94.2%</p>	A	B	<p>（評定）</p> <p>登校時の事故防止のため、度々注意喚起を行うとともに、家庭への協力依頼を継続する。事故発生時の対応も再確認させる。</p> <p>駐輪場のマナーアップ運動の継続。学校安全の日には部活動生徒によるあいさつ運動を定期的に行いたい。</p> <p>携帯電話・スマートフォン指導については、1年生の講演会、各学年HR活動等で継続指導を行いたい。</p>		
	<p>①-1 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 年間3回</p> <p>①-2 交通マナーアップ運動実施回数 年1回</p> <p>② 道徳教育のHR活動の回数 年1回</p> <p>③ いじめに関するHR活動の回数 年2回</p> <p>④ クラス分析会の実施 年3回</p>	<p>①-1 学期ごとに駐輪場のマナーアップ運動を行い、部活動の生徒であいさつ運動を行った。6回以上。</p> <p>①-2 徳島駅周辺で、1回行った。年1回実施（3月）。</p> <p>② いじめの未然防止を目的に、学校生活・携帯電話についてのHRを2回行った。</p> <p>④ 年間3回実施</p>	A			B	B
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>（所見）</p> <p>服装・頭髪については、生徒、教員ともに達成度が90%を超えた。制服をきちっと着ると意識が少しづつできてきたように思える。</p> <p>あいさつに関しては、生徒からの声掛けも増えてきたように思えたが、達成度は、80%を超えなかった。登下校時の自転車事故が、昨年にくらべ減少した。生徒の意識、家庭の協力が少しずつ表れてきたように思える。</p> <p>いじめに関しては、全校生徒にアンケートを行い、生徒からの声を聞く機会を設けた。生徒から相談しやすい環境をつくる事を心がけた。</p> <p>問題のあった生徒には、早期に対応し関係教員・保護者と連携を取り、全職員に共通理解を図った。</p>			<p>・学校や校外の生徒の様子を見かけるが、服装やあいさつがきちんとしている。</p> <p>・生徒の皆さんの気持ちが良い。特に野球部の生徒の丁寧な挨拶には恐縮している。</p> <p>・あいさつ運動等粘り強い指導をお願いしたい。</p> <p>・自転車運転では、大学生よりもマナーが良いと思う。</p> <p>・親身な指導をいただいていることがよくわかった。</p> <p>・登下校の安全の重要性をより徹底することが望まれる。</p>	

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する	① 生徒会活動が活発である。 （生徒・保護者・教員）	85%以上	① 生徒 84.7% 教員 96.5% 保護者 85.9%	B	(評定)	「文武両道」を實踐で きる環境の作りを心がけ、 各部の活躍の場を確保し、 正々とした活動が できるようにしたい。
	② 部活動の入部率	95%以上	② 入部率 87.0%	C		
② 部活動を充実させる	③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む。	75%以上	③-1 生徒 72.0% 保護者 74.3%	B	B	
	③-2 清掃ボランティア満足度	95%以上	③-2 アンケートでの肯定的意見 生徒（1年） 99.7% 生徒（2年） 98.4%	A		
③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	③ 1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。		③ 清掃ボランティア活動を2年は5/20、1年は10/14に実施した。	A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 生徒会活動についてのアンケート結果からは、昨年度に比べて10.4ポイントアップ（生徒）の肯定的意見を得、生徒会活動が目に見える形で実施できつつあるといえる。部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めた。入部率については昨年度に比べ3.4ポイント下がった（昨年度はアンケート結果から計算したが、本年度は登録実数からの計算に変更した）。ボランティア活動にも生徒会や部単位で積極的に参加することができた。また、清掃ボランティア活動については1・2年生の活動時期をずらし、それぞれ1回ずつ実施した。生徒各々がボランティア活動に参加した達成感を得ることができたとともに、自発的に様々なボランティア活動に参加することになったと思われる。			学校関係者の意見 ・全国レベルでの入賞など、素晴らしい成果を上げている。 ・進学校でありながら、文武両道で非常に頑張っている。 ・過度に長くならないように短時間で集中して、より文武両道を目指して欲しい。 ・ボランティアについても、継続するの意義を明確にすることが必要である。
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加 ・朝のあいさつ運動の実施 ・委員会活動の充実	① ・生徒会役員(9名)と生徒会執行部員(33名)が種々の学校行事の運営に参加した。 ・学校祭では生徒会役員、各種委員で実行委員会をつくり運営に携わった。				
	② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・下校時間の遵守 ・部活動の精選	② ・試験期間中は部活動を制限している。 ・平日午後8時完全下校を実施。 ・顧問の適正配置を検討中。				
	③-1 ・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域（施設や諸学校など）に根づいたボランティア活動の実践。（生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・運動部など）	③-1 ・JRCと協力して災害義援金募金活動や歳末助け合い運動に参加した。 ・徳島マラソンボランティアに参加。 （平成28年4月55名参加） （平成29年3月45名参加）				
	③-2 ・生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施。 ・1・2年生全員による市内道路等の清掃ボランティア活動を年1回以上実施。 ・ボランティア活動について、日時や内容などをHPを使って情報提供する。	③-2 ・体育部による朝の学校周辺清掃活動を実施している。 ・清掃ボランティア活動を2回実施。 （平成28年5月：2年生） （平成28年10月：1年生） ・清掃ボランティア活動日程をHPに掲載した。				

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る ②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する ③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに、教育相談活動の一層の充実を図る	① 保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 75%以上 ② 世界の健康と環境問題についての理解を深める。 70%以上 ③ 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる。 75%以上	①生徒85.2% ②生徒73.9% ③生徒85.2%	A B A	A	(評定)	生徒達が抱える心身の健康問題は様々であり、生徒を取り巻く環境に支障を及ぼしている。また、支援体制を整えているが、関係機関との連携も必要である。そのため、引き続き生徒への適切な対応に努める。世界の健康・環境問題について学習を進め、保健による生活習慣の改善や、食育や各教科・各課との連携を図る。また、保健室の掲示や、保健室前の掲示板の活用を積極的に進めたい。また、本年度も「健康増進」をテーマに、世界の人々の健康や環境に関する問題を取り上げたり、食育に関するテーマを取り上げたりすることにより、目標値を上回った。保健委員は、積極的に委員会活動を行い、また文化祭では標語作成や展示などを行い積極的に活動した。本年度の教育相談室の利用回数は、2学年が他学年に比べて圧倒的に多かった。利用者数は1年3名、2年は保護者も含め14名、3年は5名を数えた。新たに不調を訴えた生徒は少なく、定期的に継続してカウンセリングを受ける者が目立った。全体的には学年での情報交換や、保健室・カウンセラーなどとのスムーズな連携が定着化した感がある。
	①-1 「保健だより」の発行 10回以上 ①-2 尿検査の提出率 100% ①-3 「保健だより」に「食育」コーナーを設ける。 5回以上 ② 「保健だより」に「Global Health」コーナーを設ける 10回以上 ③ 職員研修会に対するアンケート 満足度70%(平均)	①-1 「保健だより」の発行 14回 ①-2 尿検査の提出率 100% ①-3 「食育」コーナー 年 5回 ② 「Global Health」コーナー 年 14回 ③ 教職員満足度 94.7%	A A B A A			
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	① ・保健委員会での生徒の自主的活動の推進。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」に「食育」コーナーを設け、興味・関心を深める。 ② ・各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。 ・「保健だより」に「Global Health」コーナーを設け、興味・関心を深める。 ③-1 特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 ③-2 各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 ③-3 カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。	① ・保健委員は、定期的にシャボネットの補充やアルコール消毒液の点検を行った。 ・文化祭では「生活習慣改善」に関する生徒の標語を掲示したり健康をテーマにした資料の展示を行った。 ・各授業や保健だよりの「食育」コーナーでは、「食」の大切さを取り上げた。 ② ・世界の健康・環境問題について各教科で取り上げたり、「保健だより」には毎回「Global Health」コーナーを設け、解決すべき課題を考えさせるように努めた。 ③-1 5.19(木)、10.12(水)の2度校内職員研修会を実施した。 ③-2 各学年会で各学期毎に気になる生徒の情報交換を行って教師間の共通理解を図り、連携して早期発見・早期対応を行った。 ③-3 教育相談の利用状況 (H28.4.1～H29.1.31) ・開室日：20日 ・利用回数 1年(16回) 2年(48回) 3年(25回)	昨年について、保健室の対応は高い評価を得た。「保健だより」や保健室前の掲示板を利用して、世界の人々の健康や環境に関する問題を取り上げたり、食育に関するテーマを取り上げたりすることにより、目標値を上回った。保健委員は、積極的に委員会活動を行い、また文化祭では標語作成や展示などを行い積極的に活動した。本年度の教育相談室の利用回数は、2学年が他学年に比べて圧倒的に多かった。利用者数は1年3名、2年は保護者も含め14名、3年は5名を数えた。新たに不調を訴えた生徒は少なく、定期的に継続してカウンセリングを受ける者が目立った。全体的には学年での情報交換や、保健室・カウンセラーなどとのスムーズな連携が定着化した感がある。			
学校関係者の意見						
・精神面のサポートも充実している。・精神的に登校できないような心身の悩みや不安を解消する機会を大切にしたい。・高校生から成人の心と体について講演するのもよいと思う。						

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る ②校内外の環境美化活動を推進する ③防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる。80%以上	① アンケート結果（生徒）80.9%	B	B	(評定)	アンケートの結果のとおり、ルミゴを洗った増み覚の啓発用たもをる。地震への多題た終わるでいかな防な活動を通した登録が必要である。
	② 清掃活動に熱心に取り組む、美しい環境を保つよう心掛けている。80%以上	② アンケート結果（生徒）84.0%	A			
	② 環境委員による清掃奉仕活動（放課後）を年間5回以上実施する。	② 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに6回実施（4/20, 7/12, 5/10, 9/30, 10/20, 11/10）。3学期にも2回実施。	B			
	③-1 避難訓練を年2回実施する。	③-1 地震津波避難訓練（6/16）と火災避難訓練（10/11）を各1回実施。	B			
	③-2 心肺蘇生法の講習会を実施する。	③-2 1年生対象と教職員対象を各1回（6/22）実施。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			学校関係者の意見
	① ・節電・節水の呼びかけ ・環境問題に関する記事の掲示	① ・環境委員が各HRで呼びかけた。 ・環境問題に関する新聞記事や校内の電気と水道の使用量に関するデータをグラフ化して掲示した。	生徒対象のアンケートで「環境美化」、「清掃活動」に積極的であると回答が80%を超えた。適度な頻度で啓発することにより、生徒自身の意識がより高くなってきたと考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・防災クラブの生徒が新任教員に防災について説明するのは実践的でよいと思う。 ・防災クラブの活動が充実している。 ・南海トラフ地震のこともあって、今後も継続して防災活動に取り組んで欲しい。
	② ・毎日の清掃を徹底 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動の実施	② ・環境委員が各HRで呼びかけた。 ・環境委員や学年による清掃奉仕活動を行った。	定期的に行っている清掃奉仕活動も、生徒にとって環境美化に関する意識を見直す良い機会となっている。節電や節水の呼びかけを生徒（環境委員）が行うことにつながった。			
	③-1 防災訓練の実施及び避難経路の確認	③-1 避難訓練の他に、初動対応訓練も2回行った。	避難訓練は今年も設定を変えるなどして工夫して行った。			
	③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進	③-2 それぞれ1回実施した。 ③-3 生徒が防災活動や防災に関する啓発活動を校内外において活動できるよう推進した。また今年度も3名の「防災士」の認証を受けた。	防災クラブは、文化祭での避難シミュレーションゲーム、職員防災研修、校内設備の耐震補強、避難訓練の準備や補助など地道な活動を行った。			

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる。 65%以上	①-1 生徒 65.6% 保護者 79.5% 職員 96.6%	B	B	B	今年も、国際的視野を 広げる一助となるよう 関連書籍を「ライブラ リーニュース」や展示 などで紹介し、教科書 や展示の特集など、 読書の楽しさを伝え たい。
	①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数。 5冊以上	①-2 4.49冊（12月末現在）				
	②-1 読書会、読書週間の実施回数をそれぞれ 年2回以上。	②-1 それぞれ年2回ずつ実施。	B	B	B	今年も、国際的視野を 広げる一助となるよう 関連書籍を「ライブラ リーニュース」や展示 などで紹介し、教科書 や展示の特集など、 読書の楽しさを伝え たい。
	②-2 ツールとして、図書館の資料を活用する スキルを身につける。 65%以上	②-2 生徒 88.8% 保護者 78.1%	A	A	A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			次年度は、本年度の取 組みをさらに広げ、今 年高ル増味を興し たい。
	①-1 読書週間を1・2学期にそれぞれ1回 実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載 する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行 する。 ①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上 実施する。 ②-1 図書委員を中心に、読書会・読書週間 を利用して読書啓発を行う。 ・生活記録の「読書」欄を利用し、読書 への関心・意欲を高める。 ②-2 SGHをサポートし、国際的視野を広 げる一助となるよう関連書籍を「ラ イブラリーニュース」や展示などで、 紹介していく。 ・「教科書に出てくる作家の特集」や「入 試で用いられている作家の特集」の展 示をする。	①-1 4月27日～5月1日と 10月26日～10月30日に 読書週間を実施した。 ・学校ホームページの「図 書館だより」の中に図書 館情報を掲載した。 ・「ライブラリーニュース」 を8月を除いて毎月発行し た。 ①-2 読書会を「好きな本の紹介」 をテーマに6月9日に開催し た。 12月21日には、佐々木美登 先生（四国大学）による「文 学おもしろ講座」を開催し た。 ②-2 「国語と英語の教科書に取り 上げられた本・さらに理 解を深める本」の展示を通 年で実施した。 また、「夏休みに読もう♪ 先生の推薦本」「戦後70年 を考える」「谷崎潤一郎没 後50年」「水木しげるさん の本」等の展示を実施した。	アンケートの結果は、昨 年に比べ、生徒が4%増 加したが、貸出数は、12月 末現在で、昨年度と比較し 58冊減少しているが、目標 値は上回ると考えられる。 生徒の読書への興味を引 き出せるように、今年も展 示のバラエティーを増や し、小論文の学習や、SGH の調べものに利用すること で、書籍の利用が増えた と思われ、今まで図書館を 利用していなかった生徒へ のアプローチができたこと が考えられる。 集団読書用のテキストの 貸出数が昨年より減った が、個人の借り出し数が増 加しているため、自発的な 読書量は増加している と考えられる。			
						学校関係者の意見
						・読書へのいろいろなア プローチがなされてい る。 ・スマホでの読書につい てもアンケートをとる とよいのではないかと 思う。 ・読書の時間の確保が課 題だと思う。 ・図書館の利用促進が進 むといいと感じる。 ライブラリーニュー スも興味深い。

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る	①②	国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。（生徒・保護者・教員） 90%以上	①② 生徒 91.9% 保護者 93.0% 教職員 100.0%	B A A	B (評定)	第3回インドネシア研修が、さらなる充実を図るよう工夫した。次年度は、フランス研修などとともに、インドネシア研修と連携し、学んだことを発信する機会を増やしたい。また、姉妹校との交流を継続的に進めたい。今年度は、入賞の機会も出たので、今後の授業の中での発表の機会を増やしたい。
	② 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る	①-1 海外研修の活動記録展示回数 2回 ①-2 1, 2年生の全クラスで異文化理解学習を実施する。各クラス1回 20名 ②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数 120名 ②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数 15名 ②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数 120名 ②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の数 60% ②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の数 200名 ②-6 S G H発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数 5組	①-1 4回展示。 ①-2 8クラスで実施 ②-1 14名参加。 ②-2 3名入賞。 ②-3 154名参加。 ②-4 49% (昨年53%) ②-5 190名 (昨年175名) ②-6 5組が発表。	A C C C A C B B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度は、第2回インドネシア研修と第9回フランス研修を実施した。両研修ともにS G Hのテーマである「健康と環境」について考えたり、日本を紹介する機会が増えた。4月にはインドネシアのステラ・マリスタ校生16名が、10月にはフランスのサン・ジョセフ校生21名が来校し、多くの生徒が交流を深めた。弁論大会や諸行事に参加する生徒は前年度より少なかったが、徳島サマースクール、ジュニア観光ガイド、高校生外交官、日独交流事業、トビタテ留学 JAPANといった人気の高いプログラムに選考を経て10名の生徒が参加し活躍した。	①-1 4月、9月(文化祭)、10月に展示。 ①-2 1年3クラス、2年5クラスで実施。 ②-1 英語弁論大会3名、英作文コンテスト2名、国際教育振興弁論大会5名、S G H甲子園4名が参加した。 ②-2 英語弁論大会で2名、英作文コンテストで1名が入賞した。 ②-3 城東セッション39名、WHO訪問42名、JICA訪問42名、外務省訪問5名、FAO訪問5名、日本語教室でのボランティア活動8名、徳島大学サマースクール5名、徳島サマースクール3名、ジュニア観光ガイド3名、高校生外交官、日独交流事業各1名が参加した。 ②-4, 5 説明会を11回実施。 ②-6 S G H発表会で4組、課題研究発表会で1組が英語で発表した。		・S G H校指定3年が終わり、より充実していると感じた。 ・大変素晴らしい活動がなされ、感銘を受けた。 ・自分たちで調べたことを発表する機会を経験することは貴重であり、年を重ねることでレベルアップしていると思う。 ・取り組みの成果が出ている。 ・課題研究では、継続的に受け継ぐ課題があってもよいのでは。 ・また、海外研修に行きたい生徒や行った生徒は、人数、行った生徒は、学校全体にどんな影響を与えているのかを知りたい。 ・大学・留学生との交流が、生徒にとって刺激があると感じた。

10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	開かれた学校づくりについてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する	① 教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 90%以上		① 保護者 93.9%	B	（評定） B	昨年度から「授業公開週間」を実施しているが、参加者が少なかった。地域住民の様子を知ってもらうよう、広報の仕方など実施計画の検討を図る。中学生体験入学や学校説明会など、本校への入学を希望する中学生やその保護者に対する情報提供は一定の成果を上げてきているが、さらに対象を広げて学校公開を進め、本校に対する理解を深めたい。ホームページについては、SGH関連の活動を含め、更新回数も以前よりは大幅に増えている。しかし、部活動に関する情報提供やわかりやすいホームページにするなど、来年度はこの点を改善したい。
	② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 85%以上		② 保護者 85.0%	B		
③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る	①-1 授業公開を年2回実施 参加者数（合計） 700名以上		①-1 5月、11月の2回実施 参加者合計 712名	B	B	
	①-2 中学生体験入学の参加者数 中学生 700名以上 保護者・教員 200名以上		①-2 中学生体験入学(8月2日) 参加中学生 679名 参加保護者・教員 184名	C		
	② ホームページの更新回数 年120回以上		② 103回更新(1/15現在)	B		
	③-1 地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数 年2回		③-1 年2回実施	B		
	③-2 中学生及びその保護者を対象とした、学校説明会の回数 年3回		③-2 年3回実施	B		
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）			学校関係者の意見
	①-1 休日の授業公開日と授業公開週間（平日4日間）を実施する。中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。	①・第1回(5月7日(土)実施) 667名来校 ・第2回(11月1日(火)～4日(金)) 授業公開週間実施) 45名来校	教育活動の公開が学校の理解に役立っていると回答した保護者が93.9%にのぼり、授業公開や学校行事の公開等が好意的に受け止めてもらえている。体験入学や学校説明会に参加した中学生やその保護者等についても、良い印象を持ってもらえている。その反面、平日に行われる一般公開については参加者が少なかった。さらに開かれた学校として、もっと多くの人に関心をもってもらいたい。また、学校関係者ではあるが、第三者に準ずるような位置づけで「学校支援協議会」を活用し、外部からの視点をよりよい学校にするために活かしたい。			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新も100回を超えたと頭が下がる。 ・体験入学は実際に志望校に参加でき、有意義である。 ・より地域の方々への働きかけをするとよい。 ・文化祭への来校者が多生く感じられた。中学生も来校しやすい雰囲気は素晴らしいと思う。 ・中学生の体験入学の生徒数を見て、城東高校への関心の高さが感じられる。 ・まだ広報の余地はある。秋の公開日は見直した方がよいのでは。
①-2 中学生体験入学の実施については体験授業、体験入部の内容や方法等について、効果的なものになるよう改善する。	② 従来への広報に加え、SGHの取組みについても積極的に更新。	②				
② ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努めるとともに、内容の更新をできるだけ速やかに行う。	③-1 学校支援協議会を年2回（6月、3月）開催する。	③-1 第1回 6月30日実施 第2回 3月実施(予定)				
③-1 学校支援協議会を年2回（6月、3月）開催する。	③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。	③-2 第1回9月17日(土)101名来校 (中学生38名・保護者63名) 第2回10月4日(火)36名来校 (中学生12名・保護者24名) 第3回10月23日(日)98名来校 (中学生27名・保護者71名)				

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	職員の仕事についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上	① 100.0%	A	B	コンプライアンスや安全管理については、「よくあてはまる」ではなく「ややあてはまる」など回答した。研修活動は3～4割は日常的である。特に「個人の情報管理意識をさらに向上させる必要がある」と評価システムに関する自己の向上の学校組織のミッドレベルの現況を機能させるようにしていく必要がある。新しい大学入試制度やアクティブラーニングの研修を積極的に取り入れる意向を持つ。学務的姿勢を育てるが、具体的な授業改善を進める。
	②-1 コンプライアンスに対する自己評価	95%以上	②-1 100.0%	B		
	②-2 危機管理に対する取組み	95%以上	②-2 98.2%	B		
	②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の実施回数	年2回	②-1 7月19日実施 12月実施(e-ラーニング)	B		
	②-2 職員全体でのコンプライアンス研修会の実施回数	年3回	②-2 7月, 11月 2回実施	C		
	③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数	50名以上	③-1 58名	B		
	③-2 校内での相互参観授業週間の実施回数	年2回以上	③-2 5, 11月相互参観授業週間実施, 参観シート2枚提出	B		
	③-3 校外での授業力向上研修参加人数	5名以上	③-3 6名が参加	B		
	③-4 「育成・評価システム」を全教員対象に実施し, PDCAサイクルを構築する。		③-4 「育成・評価システム」を全教員対象に実施	B		
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
①-1 校内組織の活性化を図るため, 学年主任等を中心とした月例連絡会をもつ。	①-1 主任等連絡会を毎月実施し共通理解しておくべきことや, 課題への対応について協議している。	①-1 共有ホルダーを階層レベルごとに設定し, 整理・活用しやすくしている。	昨年度から授業公開週間に合わせて「相互参観授業週間」を設定し, 他の方の参観してもらったり, 感想やアドバイスを書いたりする視察の授業を客観視することができた。これを, 授業改善につなげたい。 コンプライアンス研修は, 非常勤講師も含めて教職員全員で取り組むことができた。情報セキュリティについても, 研修を実施し, アンケートの結果からも満足できる状況であった。 昨年度から「育成・評価システム」を全教員対象に実施しているが, PDCAサイクルによる自己や組織の向上をさらに図りたい。			
①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。	①-2 共有ホルダーを階層レベルごとに設定し, 整理・活用しやすくしている。	①-2 共有ホルダーを階層レベルごとに設定し, 整理・活用しやすくしている。				
②-1 研修会を通して, 「情報セキュリティポリシー」を徹底し, 確実に実行できるようにする。	②-1 原則USBの使用を禁止することでデジタル情報の漏洩を防いでいる。	②-1 原則USBの使用を禁止することでデジタル情報の漏洩を防いでいる。				
②-2 外部講師による研修会を実施し, コンプライアンス意識の向上を図る。	②-2 コンプライアンス推進室から講師を招き実施。	②-2 コンプライアンス推進室から講師を招き実施。				
③-1 計画訪問等も含め, 職員研修・研究授業を計画的に配置する。	③-1 11月13日県教委計画訪問において研究授業を実施。	③-1 11月13日県教委計画訪問において研究授業を実施。				
③-2 相互参観授業週間を実施し, 生徒の状況把握や授業改善に役立てる。	③-2 11月1日(火)～4日(金)に授業公開週間を実施した。授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。	③-2 11月1日(火)～4日(金)に授業公開週間を実施した。授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。				
③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。	③-3 6名が参加。	③-3 6名が参加。				
③-4 全教員(非常勤講師を除く)が, 「目標管理シート」を効果的に使用し, 自らの課題や責務を客観的に捉え, 明確化するとともに, 次年度への改善に生かせるスキルを身につける。	③-4 「育成・評価システム」を実施し「目標管理シート」の利用で次年度への課題の設定につなげた。	③-4 「育成・評価システム」を実施し「目標管理シート」の利用で次年度への課題の設定につなげた。				